

2023年9月7日

立教大学国際学術研究交流制度
2023年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	経営学部・助教
氏名	細田 雅洋
派遣機関名	School of Business and Law, Edith Cowan University 所在国：オーストラリア
研究テーマ	従業員のウェルビーイングの向上に向けた戦略と施策
派遣期間	2023年8月6日～2023年9月5日（31日間）
研究経費	694,288円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例) ○○に関する調査、○○氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2023年8月6日	離日
2023年8月16日	Professor Gabriel Eweje と研究討議を行った。加えて、School of Business and Law, Edith Cowan University の執行部にあたる教員を複数名紹介いただいた他、Joondalup Campus の施設紹介を受けた。
2023年8月24日	SEVENTEENx Perth 2023 に参加した。SDGs の実現に向けた行動を考え、実践していくことを目的としたイベントであり、Professor Eweje が報告者のうちの1名として登壇した。Edith Cowan University もこのイベントに協賛しており、イベントの参加者や大学の関係者とも交流する機会となった。
2023年8月30日	The Australasian Business Ethics Network に参加するための Extended Abstract について Professor Eweje と討議したうえで、Extended Abstract の提出を完了させた。
2023年8月30日	学部長にあたる Executive Dean Professor Maryam Omari との面会が実現した。その際に、本学経営学部との研究・教育交流をどのように実現していくかについて確認をした。
2023年9月5日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

研究活動は以下の通りである。まず、週に1度～2度、Professor Eweje と面会のうえ、研究の内容について討議し、研究成果として論文を作成した。討議を重ねたことを通じて、COVID-19 のパンデミックが従業員のウェルビーイングに与えた正と負の影響について日本の背景から考察することに加え、理論として Human Sustainability を用いることとなった。これにより、企業がサステナビリティの課題としてウェルビーイングを取り組む必要性を明確にしたうえで、パンデミック後に企業が対応すべきことについて議論が深まった。現時点では、COVID-19 のパンデミックが従業員のウェルビーイングに与えた正と負の影響を明らかにしたうえで、性別や所得水準などの要因によってどのような差があるのかについて日本の背景にもとづき考察した。そのうえで、Human Sustainability の観点から、目的意識、身体的健康、家庭生活に対する共通のプラスの影響が属性に関係なく継続できるように、また、社会的・精神的ウェルビーイング、身体的健康、心の健康に対する共通のマイナスの影響が将来的に解消されるように企業は努力すべきである、と結論付けた。

作成した論文にもとづき、2023年11月30日～12月1日に Macquarie University City Campus (Sydney, Australia) で開催される The Australasian Business Ethics Network にて研究報告をする予定である。タイトルは“Human sustainability and employees’ wellbeing during COVID-19 pandemic in Japan: A preliminary result”である。

この他の研究成果としては、Senior Lecturer の Dr. Uma Jogulu と共同して、Professor Eweje が Editor in Chief を、自身が Associate Editor を務める Corporate Governance: The International Journal of Business and Society (2-ranked journal on the ABS, UK. Q1 ranked journal in SCImago. Citescore- 9.0) における Special Issue を企画した。Gender Equality の観点から Dr. Jogulu と私の研究テーマが共通していることからこの Special Issue の企画に至った。今後は、出版社の承認を得たうえで、この Special Issue の企画が2024年11月までに完結するよう、Guest Editor として取り組んでいく予定である。

交流状況については以下の通りである。2023年7月にMOUの締結に至ったことをきっかけに交流がスタートしている。MOU締結にあたって2023年5月に来日した Executive Dean の Professor Omari と Professor Eweje との対話を通じて、MOUの締結をきっかけに双方で研究・教育の交流を図っていくということを再確認することができた。

具体的には、本学の教員による School of Business and Law , Edith Cowan University への訪問・滞在に関しては既に可能な状況にある。加えて、本学経営学部で実施している Overseas EAP を Edith Cowan University で実施できるように進めていくということになっている。早ければ2025年からこのプログラムを Edith Cowan University で実施できる見込みであり、現在、双方の担当者間で実施に向けたやりとりがされている。なお、Edith Cowan University は、Perth の中心部に City Campus を建設中であり、この City Campus の利用が2025年度から開始される。School of Business and Law も現在の Joondalup Campus から City Campus に移設される予定である。Overseas EAP の実施も新しい City Campus で実施される見込みとのことである。City Campus で Overseas EAP が実施されることによって、現地法人の訪問等を織り交ぜたプログラムの実施が期待される。この他、交換留学については、このプログラムの実施を重ねながら、実現に向けて協議していく予定である。

SEVENTEENx Perth 2023 の様子



研究討議の様子

